



特集 | 交通事故に 遭わないために

普段生活していく中で、誰にでも起こりうる問題である交通事故。事故が起きると被害者や加害者のみならず、周りの人たちにも大きな影響を与えます。事故に遭わないようにするためにすべきことは…今回は交通事故について考えてみます。

秋は交通事故が多い時期

交通事故は年間を通して発生していますが、交通事故は秋から12月にかけての時期がとて多いと言われています。

市内においても、9月から10月までは平成25年を除き増加傾向がみられ、注意が必要です。

秋の事故が多いワケ

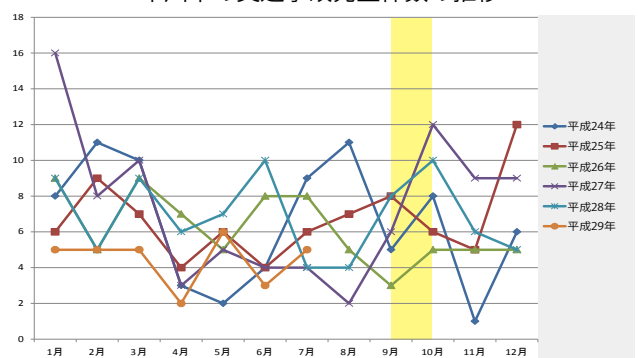
交通事故が一番多い時間帯は「夕暮れ時」と言われています。

秋になり日が暮れる時間が早くなってきました。真夏であればまだまだ明るかった時間帯であっても、秋になるとかなり薄暗くなってきます。「まだ明るいから大丈夫」というちょっとした油断から交通事故が発生しています。

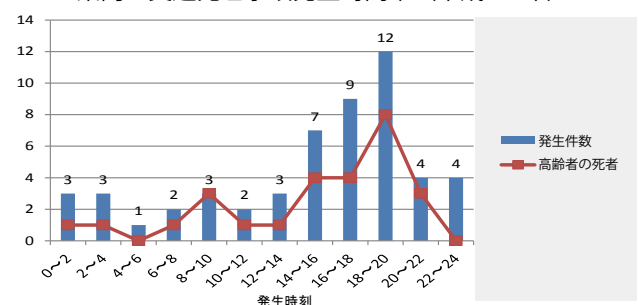
昨年の県内における交通死亡事故の発生している時間帯をみても、その多くは夕暮れ時に発生しています。

歩行者、ドライバー双方がその危険性を認識して、事故に遭わないようにすることが大切です。

平川市の交通事故発生件数の推移



県内の交通死亡事故発生時間帯（平成28年）





交通事故に遭わないために 気を付けるべきこと

重大事故が多い夕暮れ時は、会社や学校からの帰宅時間に重なります。
周囲に気を付けることはもちろんですが、以下のことに気を付けましょう。



ポイント1

反射材を身に着けよう！

薄暗くなってきたときに自動車から自分の存在に気付いてもらうためには、**明るい色の服を着用**するとともに、**反射材を身に着ける**ことが効果的です。

ある実験によると、反射材を着用することによって、約60メートル先から歩行者を発見することができるといわれています。

反射材を普段使っているカバンや靴などにつけて、**自分の存在に気付いてもらいましょう。**

また、小型の懐中電灯を持ち歩くと、足元もよく見えるのでおすすめです。



反射材はさまざまなタイプがあり、靴に貼って使用するものもあります。

光が当たると暗闇でも明るく反射します



小さなキーホルダータイプの反射材であっても、身に着けるだけで自分の存在に気付いてもらえるため、事故に遭いにくくなります。



ポイント2

車のライトは早めに点灯を！ ● ●

歩行者が反射材を着用していても、その効果を発揮するのは自動車のライト点灯があつてこそ。

夕暮れが早くなってくると、真夏ではまだ明るかった時間帯でも薄暗く、人や車の発見が遅れがちになります。

自動車のライトを早めに点灯して、人や車の存在を早めに把握するとともに、周辺の車にも自分の車の存在が確認できるようにしましょう。

早めのライト点灯（日没1時間前）を心掛けましょう！

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
時刻	17:00	17:30	18:00	18:00	17:00	16:30	15:30	15:00	15:00	15:30	16:00	16:30

交通事故防止に向けて

市では、交通事故防止のために各種イベントなどで交通安全の呼びかけや反射材の配布を行っています。

また、県では『敬老の日には「反射材」を贈ろうキャンペーン』を実施し、高齢者が夜間に交通事故に遭わないようにするための運動を展開しています。

交通事故で怪我をしたり、命を落とすことがないように、一人一人が交通安全に気を付けることが大切です。

交通事故のない平川市を目指すためにも、皆さんのご協力をよろしくお願いします。

交通安全教材を貸し出しています

県では、交通安全視聴覚教材（CD、DVD）を無料で貸し出しています。

学校や職場、地域での交通安全教室などにお気軽にご利用ください。

申込方法

県庁窓口で直接お越しいただくか、電話にてお申し込みください。詳しくはお問い合わせください。

申込み・問合せ 県環境生活部県民生活文化課
交通・地域安全グループ
☎017-734-9232



子どもたちも交通安全を学びました

8月30日、猿賀小学校の4年生から6年生までを対象に、県交通安全キャラバン隊による交通安全教室が行われました。キャラバン隊は、県や一般社団法人日本自動車連盟(JAF)などにより構成されており、平成23年から毎年、県内各地で交通安全の教室を開き、県民に交通安全の大切さを教えています。

当日は反射材の効果体験や事故発生時の衝撃の体験、白バイの体験乗車などが行われ、参加児童は交通マナーを守ることの重要さを学びました。

シートベルトの大切さを知る 「シートベルトコンビンサー」



自動車での衝突時の状況を再現することによって、シートベルトの重要性を学ぶための機械です。

エアバッグなども作動して、事故が起きた時にどのような衝撃を受けるのか体験することができます。

反射材の効果体験

「暗幕テント」、「リフレクボックス」



反射材を着用することによって、どれだけ見えるようになるかを知るものです。



白バイ
カッコいいね!



Interview

子どもたちには交通事故がどんなに怖いかを知ってほしい

交通事故は本当に怖いもので、いつどんなところで起こるか分かりません。ですから、子どもたちが交通事故に遭わないようにするために、交通安全教室などの取り組みがとても重要であると考えています。

今回の経験は、シートベルトを着用すること、反射材を持ち歩くことがなぜ大事なのかを身をもって知る良い機会であったと思います。この経験を通じて交通安全の考えを身に付けてもらい、家に帰ってから家族に交通安全を広げてもらいたいです。

また、将来大人になってからも交通安全を心掛けるきっかけとなるのではないかと思います。子どもたちにはこの経験を忘れず、日々過ごしてもらいたいです。



工藤 梅子さん
平川市交通安全母の会
会長



体験を通じて…参加した児童から

「反射材だけでなくシートベルトも大事」

シートベルトコンビンサーの体験は、ものすごい勢いでぶつかったのでびっくりしたけど、時速5kmしか出ていなかったのがもっとびっくりしました。これが40kmや100kmだったらどうなっていたらと思うました。

家に帰ったら、シートベルトは命を守るために大事だと家族に伝えたいです。

(左から) 奈良 柚希さん、福士 蒼空さん
三浦 永遠さん、花田 倫さん
(猿賀小6年)